

## 救急外来診療と看護師特定行為研修指導への効果

宮下 郁子<sup>†</sup> 吉田守美子 東野 恒作第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 2 (102-105) 2024

## 要旨

診療看護師（Japan Nurse Practitioner：JNP）は、その役割から「医師の働き方改革」におけるタスクシフト/シェアを推進することが可能な存在と考える。国立病院機構四国こどもとおとなの医療センターの抱える2つの課題について、JNPが医師と協働することによって、どのような効果をもたらし、医師の働き方改革に貢献できているのかを調査、検討した。

【課題1】「救急外来患者への医師の十分な対応が困難」に対してのJNPのかかわり

対象と方法：2022年4月～7月の平日日勤の救急搬送患者212名（男性110名，女性102名，平均年齢71.9歳）の内，JNPの診療件数と診療時間，オーダー数と内容，患者の重症度，インシデント，アクシデントの有無について電子カルテより情報を抽出し集計した。結果：救急科で対応した患者152名の内，JNPは97%を診療していた。他施設からの紹介搬送60名の内，JNPは20%を診療していた。医師の指示でJNPが単独初期診療を開始した割合は38%であった。JNP単独初期診療開始から医師の診察開始までの平均時間は41分であった。全オーダー件数は925件，その内JNPがオーダーした割合は88%であった。患者の重症度は，JNPが単独初期診療を開始した場合，JNPと医師と一緒に診療を開始した場合と比較して軽症が多く，死亡事例はなかった。JNP診療時にインシデント，アクシデントはなかった。

【課題2】「看護師特定行為研修指導医の指導時間の確保が困難」に対してのJNPのかかわり

調査期間と方法：2017年度から2021年度の看護師特定行為研修指導実績表より調査した。結果：総指導時間数の内，28.2%～43.2%をJNP1名が指導を実施していた。

JNPは医師の負担を軽減し，医療・研修の質を向上させる可能性があると考えられた。JNPは看護がベースにあり，診療領域の知識・技術を身につけることにより新しい看護の価値に挑戦し続けている。今後はそれらの成果を可視化し，全国に情報発信していく必要があると考える。

キーワード 診療看護師，救急外来診療，看護師特定行為研修

国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター †診療看護師  
著者連絡先：宮下郁子 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター  
〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1番1号  
e-mail：miyashita.ikuko.zv@mail.hosp.go.jp  
(2023年3月31日受付 2024年4月19日受理)

Effects of the Emergency Outpatient Treatment and Specific Nursing Training  
NHO Shikoku Medical Center for Children and Adults  
Ikuko Miyashita, Sumiko Yoshida and Kousaku Higashino  
(Received Mar. 31, 2023, Accepted Apr. 19, 2024)

Key Words : Japan Nurse Practitioner, emergency outpatient treatment, specific nursing training